

指 導 係

1 指導関係事業

(1) 学校訪問

指導主事が随時訪問し、校長をはじめ教職員と協議懇談することにより、学校の抱える問題を解明し、指導・助言をした。また、要請により研究会等に出席し、指導・助言を行った。

(2) 研修会

令和元年度は、次の研修会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

ア	校長研修会	2回
イ	副校長研修会	1回
ウ	主幹教諭任用時研修会	1回
エ	主幹教諭研修会	1回
オ	主任教諭任用時研修会	1回
カ	情報教育研修会	2回
キ	特別支援教育研修会	1回
ク	特別支援学級担任研修会	3回
ケ	水泳指導研修会	1回
コ	人権教育研修会	2回
サ	教育課題研修会	2回
シ	教育研究会研修会（24部会）	17回
ス	不登校対応研修会	1回
セ	中堅教諭等資質向上研修会	10回
ソ	初任者研修会	11回
タ	2年次教諭研修会	3回
チ	3年次教諭研修会	2回
ツ	4年次教諭授業観察（研修会）	1回
テ	環境教育研修会	4回
ト	服務事故防止研修会	2回
ナ	小学校外国語活動研修会	2回
ニ	中学校英語科指導研修会	2回
ヌ	転任教諭等研修会	1回
ネ	食育研修会	1回
ノ	読書活動研修会	1回
ハ	不登校対応研修会	1回
ヒ	特別支援教育コーディネーター研修会	1回
フ	日本語学級担当教員研修会	2回
ヘ	道徳研修会	1回

(3) オーケストラ鑑賞教室

市立小・中学校児童・生徒を対象としたオーケストラ鑑賞教室を、市民会館において開催した。

(4) 教育研究奨励、教育課題等研究委託

教育研究を奨励するとともに教育研究を委託し、教職員の使命の自覚を促すとともに、資質の向上を図った。

ア 教育研究奨励校 2校

学 校	研 究 主 題
一中（2年次）	主体的に学び、確かな学力を身に付ける生徒の育成 ～グループ・ペアワークにおける、思考力・判断力・表現力等を育むための工夫を通して～
三小（1年次）	自ら考え、共に学び合う児童の育成～プログラミング教育に重点を置いた、問題解決の力を身に付けるための指導の工夫～

イ 教育課題等研究校 8校

学 校	研 究 主 題
一 小	読み取る力の育成～説明的文章教材の指導を通して～
二 小	広げ、深める「特別の教科 道徳」の授業づくり～道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める児童の育成～
四 小	主体的に学習し、表現できる子どもの育成～課題設定の工夫を通して～
五 小	心豊かに学び合う児童の育成～子供たちが響き合う集団づくりを通して～
六 小	「確かに読む力を育む指導の工夫」～「国語科の説明的な文章を読む」学習を通して～
七 小	EdTech（教育×IT）を活用して、21世紀を生き抜く確かな学力を育む～新しい教育環境がもたらす学びのかたち（適応学習と協働学習）～
二 中	「見方・考え方」を働かせ、深い学びにつなげるための指導の工夫
三 中	「深い学び」ができる生徒の育成～「主体的な学習活動」と「対話を通じた思考」を基として～

ウ 教育課題等研究（団体）

団 体	研 究 主 題
校 長 会	主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童・生徒の育成～見方・考え方を働かせた学びの実践を通して～
副校長会	「働き方改革」を推進するための副校長の役割

(5) 特別支援教育の推進

特別支援学級の児童・生徒の安全管理及び学習指導等の充実を図るために指導補助員を配置するほか、教員向けの特別支援教育研修会等を開催し、教員の特別支援教育に関する理解を深め、指導力の向上を図った。

(6) 各種指導補助員等配置事業

小・中学校に各種指導補助員等を配置して、児童・生徒の指導補助等を行った。

事 業 名	人 数	配置時間
中学校適応指導補助員	9	2,623
夏季休業中水泳指導補助員	36	478
小学校水泳指導補助員	35	489
日本語適応支援員（技能指導講師）	15	888
日本語適応支援員（一般指導講師）	2	202
学習指導市民講師	60	60
小学校授業指導補助員	46	13,875
特別支援学級等指導補助員	35	8,530
部活動外部指導員	31	1,277

(7) 英語教育指導助手事業

福生市英語教育推進計画に基づき、中学校全校に外国人英語教育指導助手（ALT）を配置し、

中学校英語科の授業における補助を行った。また、各小学校にも随時ALTが巡回し、小学校第5・6学年の外国語活動及び小学校の第1学年から第4学年についても、英語活動等における補助を行った。

指導日数：1,016日

(8) 理数教育推進事業

小学校第5・6学年、中学校全学年に理科支援員を配置し、理科授業の実験、授業等の補助を行った。

人 員：15名

活動時間：858時間

(9) オリンピック・パラリンピック等教育推進事業

福生市立小・中学校全校が、東京都教育委員会の指定を受け、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、国際的なスポーツ大会等が国際親善や世界平和に果たす役割を正しく理解し、世界の国々の文化や歴史を学び、交流することを通して国際理解を深め、スポーツを通して心身の調和的な発達を遂げ、進んで平和な社会の実現に貢献することができる児童・生徒の育成に向けて、研究に取り組んだ。

各小・中学校では、指導講師等の招へい等を行った。

(10) 英語教育推進事業

実用英語技能検定（英検）について、中学校第3学年全生徒及び小学校第6学年全児童が公費で受験し、英検取得を目指した。

(11) 教育支援センター機能強化モデル事業

不登校児童・生徒の学校復帰や社会的自立に向けた支援等を行う学校適応支援室「そよかぜ教室」において、一人一人の児童・生徒の多様な課題に対応した支援ができるよう、セルラータイプのタブレット端末を活用した学習支援を実施した。

(12) 持続可能な社会づくりに向けた教育推進校事業

福生第五小学校が東京都教育委員会から「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」として指定を受け、持続可能な社会づくりに向け、自然環境や地域・地球規模等の諸課題について児童一人一人が自らの課題として考え、解決していくための能力や態度の育成を図った。

(13) 学校と家庭の連携推進事業

いじめ、不登校、暴力行為など生活指導上の課題に対応するため、小・中学校全校に「家庭と子どもの支援員」及び「スーパーバイザー」を配置した。

ア 家庭と子どもの支援員

人 員：19名

活動時間：2,400時間

イ スーパーバイザー

人 員：4名

活動時間：19.5時間